KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

新定自然藥 小

大井3
22
6

清衆錄 卷之二

門 ヤ武3
函 228
巻 2

東洋文庫

濟衆錄 巻之二

人體篇

組織論

水膜

水膜とは結織の要質なり而して其の度結素維を幅廣
く東ねたる糸なりとして、経緯得て織成すものなり
て灣曲せるを云へり、是れ即ち面積の多大なるを要せ
ざる腔内の壁面を被へる形なり、血脈神経腺
等は水膜(脈)なり、水膜を織成する結束糸中は、横維(所謂経糸)
雜糸は、横維のみにて所謂緯糸は一も無きなり
必要も緯糸なるが故なり、是れ之を知
覺必要なる部形を、之の縦張の様は、筋肉の如く筋膜を感し
て動くなり、筋膜は筋肉の如く延伸せざるを

明治十五年十月十日購求
宮城縣藏書

水膜の表面い物に粘連せられて故在て其裏面ハ結織
きて裏に列をる物にゆるく粘着て表面にも多面角壔
の一層或ハ数層ありて被いるれ共ハ水膜に深く浸入して充分
水を含て發育れ共常に湿いて滑らかなる中に角壔を
粘着さるに結織を用ゐ共ある硬膜の表面に
端軟骨の表面のごとく水膜の表面角壔もて被ハ
る所ある事粘囊のごとく胞膜の内を腔内を被ふ水膜を形
ち囊に似たるその端を形しく傳い張出て腔内の織
術の表面を包み此を水膜の表面相觸るごとくものなる
故に觸るゝ毎に互に湿いて滑らかなる事恰脳膜等傷の
患形し水膜の互所と水膜に接出たる物に後りて其
種を示くれたる水膜被膜と云ハ近所をハ為の
青囊と称するごとくなるに所なくして所に其缺

たる所を被膜内に有る顆粒軟骨の表面をも所に
多面角壔の羅列せさるにて水膜の存をも深く
膜の分布せる所に所多面角壔羅列せる者多
の所を〻罩被衣（被膜の表面被膜の内面被膜の故在る所
のごとく被端の軟骨もて被いるゝ所に多面角壔
らしく罩軟衣の骨に接する端に被膜囊出て小紐狀を
なし内に暗褐色を蓄ふ故に被膜に似たるものあり
是晋白色骨の表膜粘汁を滲出し常に被端を潤す故
を被汁と云ふ故に被膜の全面に滲出さる
者にして水膜の水を一面に滲出せらるゝ為
し水膜の別種に粘囊と云ものあり粘囊を腔
に被端に〻腱膜を蓄へ此を被膜囊と云ものあり粘
汁を滲出し骨らかなる故に腔の運動を便利なる

此室腦の外面をも蔽ひ稜のをくまなくて浦と呼ぶ物を
利用するらいを知る筋あるを粘囊と呼ぶ皆囊にして大
小同じからず腦と異なるものなるを分別せと
其上蔽らるるを骨延の骨と骨節の骨と
けるを筋肉の色を史用をうる形得深くして血の摩觸を防
くるなるを内色を近年の流るる粘囊を水膜の奪ま
て為るなるを青囊ほかるを馬ほ摩觸を示部の
ほかの流らふ室間を生じてその嚢ひを
内るまるまてその間肉ほ改めて筋を内のその膜を
あらしめるさ色を筋汁を出内を云をりるる
ヒルトルを筋小の物を用ちくさる粘囊を偶物ほ
出る事を粘囊ハ紙るるもあるを此けを大粘囊ゆの三
角骨膜筋膜の骨ほ生を粘囊ハ而しく筋肉ちる膜囊

ほてあるるを内骨をけほ骨をを筋
水膜ほを骨間をを汁を骨味の産物をその性血中の
水ほ物多をその骨速なるを骨深骨間を行しく
膜ほ骨の息ちほ濃をを骨を正白内障眼ほ撰擇物
を強をしほ眼水速ほ濃をるまて内るを筋しく縦骨もて膜
を結を骨をを濃骨をハ骨細を筋ほ骨膜を外
表ほ骨のしを多ほ鰐内を骨を血管の水息内ほ燥きて
その質粘膜を骨を体内ほ骨れを骨管の水の濃きて濃
膜を心脆絡蜘網膜ほて知を骨筋骨を骨を
を骨内水腔室を骨を昔を骨脈の血脈をの濃を骨膜の表
面ほ抑出しては吸を骨て血骨のを血を出しを骨出を骨れを骨
骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を骨を
即水脈

けて肺胞に解剖して觀るに、肺臓の奇異なる脉を始め
ちこれに血を水物を毒物を吸收する樣を
やがて呼吸をなめんをめに設くるが如く
腔内に毫毛の密地なけれどもおのおのひしりめく水
の溜留するものなるが如く腔内胸腔にその脉脈多し
て腔壁と脉脈の表面接するに接隙なきあるを
息ちたる氣の壓力に遮られて壁面窪しその隙隙に塞ぎ
水並氣の力大氣の壓力に勝れ所以なるもまた氣脉
なるて流法に溜留なるを大氣の壓力にて出る樣紙し
故に膨ちして水腔病生なるるその所に養蛭鍼を刺をを
水噴出して止まるを大氣の壓力に勝る所以なるを

脉經

膜質にて覆われ綿なるに所は位ちを生して内に水質

の物質を粒を脉を管をけを粒その水質の変なる
に接して貧脉且取精脉血脉水脉なるを、谷を変なるを
変化せに脉經変なるの粒にも脉を獨を血脉水脉に限を変
ちいまを〻して論を為〻その紙の脉を性格に蟲なる
ら故に筋膜にて毒〻〻云為〻血脉を血を血なるの
道を変形血を食物を化物〻を血〻全身に行渡
なる末指頭微鏡にて見るに粒を鏡にて見るに粒
を〻なるを〻その為にさる所を角織の〻為を己が体の百
為長の血に血に為を質を血なるを生活を粒を法なを
為聲を粒を独りなる血の為を法なるを為なるを
体へられなる一為即ち心脉のなるやくに為係なるを
を心脉に為を一なるを一やくの為を為して日夜昼夜も息
あり粒を血を物を血を心脉に為して為の為を

金丹百篇に猶予道と嘉脈と云あり是脈は動脈をもて
云へる名にくるなり然れ一旦百篇を著したる剥解の血
管をけてもて心脈に納るべの管を孫絡と云ひ管を動
脈中けに血脈なるべあるしいまと各剖御の時らに形
らを見しに是を孫絡のうを血管なりし動脈は血管
きりゆえに気道とそなりしなるとり孫動脈の原流アルテ
リアと云ひ気を通を管云まして西洋支るを洋西道
しを実にうなに紙ケを管なり〳〵判いなるは医今を改
め紙法動脈を樹の枝を多なるうめ〳〵糸法して幹なる枝
とそうち枝なを枝を多なるちその末端脈動に少なるとそ
孫脈の深を形る枝端の脈なる所を顕微鏡もてあ
ら発見に〳〵して実の脈管とて動脈の端と孫絡
の端なる繋ぎと発見あるを脈とて名付けたるなり

を血を心脈を出るべ動脈を脈を動脈なるとして毛脈の
をしを脈なる孫脈に伸元孫脈なるをうけ〳〵僅に心脈
に納るを管を管も孫の循るらめを通なるしをさ寄に
なるて血行を移なを云血の主管血中に百篇を著るを
に管めるが故に血管を脈の壁面を通過して其の血
を通の都に浸しこそを保絡〳〵なを要絡を修絡
をその剖解の汁をなるち淋巴と云るして別脈なるを
て血血中に功を別といなるち水脈なるを淋巴に水の吳
名なして無色液なに淋巴なるなるて淋巴を通を
る道を水脈を云水脈にを孫脈に接をるの故に淋巴を
血中に功を出を云淋巴孫脈血に離をて通に出を血心脈に
功を水脈の別種に乳糜脈を云もの血管その中を通
を血汁を生色液なるに食物腸中にて化為して乳

白色をなれる汁を是を界らゆえまたあるなり
乳糜脈も合ての実汁物を水脈中より故を生色より都脈血
よりなりて四脈より入れ都血を乳糜汁より生他第し都
脈血の剤は生を界も得ん百篇を考ふ尋より作第しを
なお生大義の強毒を引くまあらを新を強を表を
らまて乳汁を雑元を乳剤飲血を心脈より功を生をへ
りあ生ちまを全身より流る都脈中より移りを別より都血の
生路をまてちまあ毒ちを表より撰りて老壁物生をの乳
炭毒水毒を四を出しまし新しまを強毒を引を取あの稿を強
を生篇をいを生の篇を何あ和を曰しまを脈をあ和あ乳
心脈をを生て肺脈より稿を血を生ちを都脈血を生脈より
をして四脈より稿を血を生ちを都脈血を生ちを陳を生を
新を取る血汁あ四脈より流を生を生て肺脈より以を生肺脈

をを生ん心脈より功を生をを生の道路稿をしまいをあ
の全身の都血より生を表を望を小都いを都をあを生を
生ちを生ちの血行の方都血小都血を交を生を生ハ流
の都血の脈をしまを生ちの血をあをしまを
都脈の脈をしまを幹枝樹共をみをあをを肉膚中膚外膚
より別を生をしまを肉膚を脈肉を生をして多部を乳水膜根の膚より
を生ちを生ちをあをしまを滑膚を膜を生ちを生れ
ふ肉膚の血脈の大小より為をして厚膚の厚ハをの表面より
毛到を界角脈の草稿より毛を角膚ハ一つを生も校
を生を生を辛を生を或ハ角を生を或を生を湯を水を乳をあを
毛を生をまを生を角脈を生を生を外膚ハ結膜を生を血を
り歯脈鏡ををの膚を亀をあを生を肉を生を
生を生を界限を生を生の結膜を移を生を界脈を

要部を中膚の要部より要部に膨脹し膨脹に伴ひ
以て中膚なるを知るべしなるを以て膨脹
るを要部膨脹に伴ひ陰茎なるを以て海綿
ハ海綿体にして跳動の多き為めに中膚なる為ちに
る為に橈骨を以て外膚の内に陽茎を囲ひ以て海綿
が陰茎の為めに外膚なるが如く中膚なり〳〵陰茎の表面を
なるを以て二膚に分れ表面に近き部分は縦縫を以て
二膚の間なる為に四膚に分れて解剖学上内面を亀頭
を包ケーヘステルテ膚経維膚輸経膚陰茎膚等を表
を要する

亀頭の直行を大幹として亀頭横を除く外を角たち
て直行を枝と指とをたち拠湾曲して要動を為す是を尿子宮

膜膜に入る亀頭ハその要部に高〳〵して或を伸び或を縮ま
或を裏ら是或を捩る是〳〵をへて左右たち拠湾曲〳〵して是
行をなを是〳〵身の上半のたち幹を節膜の後を是〳〵たち半
ハその部を是を〳〵ら是一部膜を幸ある亀膜のこ
なる為に是〳〵四部に分るたち幹を変〳〵て睾丸の外を是さ
を枝〳〵を除〳〵なるて骨に接を蔽〳〵
亀膜の生理を云為に之の結構に伴なるて考ふに無量を
侵を者なるを是を〳〵を膜亀なるて器官〳〵亀体是〳〵者
を膜亀を亀膜の中膚部郷に為てなるを自らをの内に
海綿の様なる〳〵あれに高〳〵て亀〳〵ものを是海を
なるをの後海変変て亀膜に自ら海綿を為の様なる
無量の波深に遷らるを為て海綿体を結を者なるを海を是れ
いつをもコルリケルをて膜を陰茎に縫を為を陰茎を云

をを驚嘆し、鄭ち去を託し四支の脉絡まを緩張弩くを失
をを忘れ肥衣の動脉まを自ら緩弛の様なまて宮殿を故
る理空毋なを存を存を知まてよまを嘉られを是れよ
て蓋気よ拒さ鬼神を様章をられを脉絡絡を為なを為を
空ふを生脉絡を為まらまて皮膚所を為まを変をるまて知
を〜失様を存る動脉を切鄭を生の出徑も共よ
絡ふ空死をるよ為りてを為の歩徑よ得〜て呂長さの
し絡まれを為ちその塞面まを絡動の様存をを空を
るまを見るを〜動脉の絡陽を去て獨を心脳の跳動よ為
〜て起る無量の湧陳よ遍ら出られまよ以しをを全く以の
をの所ふ〜て為動の呂を新を耳をふるを〜為動の異
口第〜〜絡まて一流の無〜まを絡さを為を死せ空絡
力も為せて口唇〜をへこれの為為輪為よ絡絡ふるよ

ふふを中ふ心を沈脉を心脳の跳動脉動よ為〜て
動ふふ〜変象を為を為を為れをを〜脉を順逆を
心脳の様よ係ふる者ふふその虚実を脉空の無量よ拒
為を為力の整嘉まふをその大小まを無量の多寡よ実の
為を無量没様の大小まを実ふ新を〜ふれを為を虚実を
反を新脉を為をよふふを為い小脉の実〜大脉の為を
るがめ〜動脉の知覚を為ふ〜ふふを為を為を神を
を為〜を覚性をふを試よ脉動脉を切為〜を為よふを
る脉を郷ふ〜疼ふを覚を〜中まを搐動手疼痛を覚ふる
ものふれを〜を稀ふを為をその内よ神を生ふる郷ふし
をふを出者ふるを内ふ神を為〜て知覚を〜
空を為ふふ為を徑僅ふ五百千ふの一到印の動脉を
ふを為を不酷よ為〜験微鏡よふ〜れを神を生の浮を為を

子宮に至り新胎の給養を形ることその創の速なる驚くべ
き病毒産物を生じもてあるべし新々なる血脈を造り化
を極ハりの[illegible]卵中よりて子宮に体内時の為て蒙た
る子黒姙婦の宮中ありて知られざるに拡がりて胎児よりその
る血脈を初発管検査よりなる生産速傳のをしくなる累
生をの内傳を伝ひて血球なるを外傳を伝ひて脈管数
層を生を中層を膚の形ちを存して角膚より表皮をまでを
毛脈の伝生を異なる異なるを実膚即核の原連球のをしくなる累
生をの血より接をる胞無消ちて一切芽生なる実を異繁
より速産を更より此繁面より生ずして新たより枝を生ずして連より廻
血管此の生ずるを生ずるの為なる実膚の枝を伝た
繁面より生ずして枝を分て連より細脈を生を
生ずる病毒産物中より子宮新脈も此理より生て生

ずるを生を実驚ずして血管ずるを生ずるを生ずるの為
を孔心脈を血管の特有を生ずるを生ずるを生ずるを

[illegible]止血の為に縫合を施すべきものなれども
[illegible]骨を脇胸部幹を鄰繋しつるひを腦髄を経の術めて
[illegible]を止血法を用ゐるを脇部の縫力を侵さるを
[illegible]神経の要章脇部を[illegible]て動脈せしむ然[illegible]
[illegible]血管を結紮し指もて出血を[illegible]創面を[illegible]
即ち血出を止めを[illegible]を延ばしるをもて効あるもの形[illegible]
鄰繋を[illegible]腦髄を絶を[illegible]を要[illegible]を脇[illegible]の各部中を
[illegible]も[illegible]を動脈を横を切断[illegible]て[illegible]の創を外創を合
[illegible]を血噴出[illegible]て鳥[illegible]
[illegible]の部端外膚を蜂窩織中を[illegible]縫合を縫力のためを外
膚[illegible]を[illegible]絶を内[illegible]
[illegible]故を血出るを以を術[illegible]ち[illegible]を古人も切断[illegible]
[illegible]動脈を[illegible]を全く切断[illegible]を[illegible]脇表 即外膚 蜂窩織 のけ

を血[illegible]を[illegible]術を[illegible]
切断[illegible]げるを[illegible]の[illegible]血[illegible]
を剥去[illegible]て切断[illegible]げ[illegible]
器[illegible]を血をつぐて恐[illegible]
脇病[illegible]云ひの[illegible]此病[illegible]
て腐病を引出[illegible]脇病[illegible]動脈を多し少動脈
を[illegible]を[illegible]動脈の[illegible]柳動脈は数
膚[illegible]を[illegible]織膚[illegible]を[illegible]
膚[illegible]を膚[illegible]縫合の[illegible]を[illegible]中を[illegible]
く蜂窩織と陰力織とは性質やうさら故を容易を傷を
絶ゆ[illegible]その他の織膚は墨傷をもて裂けやすし
れらて動脈の[illegible]る叫を[illegible]力を[illegible]る分故を容易
を病を生ずを[illegible]を結[illegible]膚[illegible]てその縫張減を[illegible]は

ち瘍を生ずる腺衛多しその後病毒腺管を経由して
皮下の脂肪を減じ次第に皮膚の表面を蔽ふ様になるは
多くは腋下部の腺管を経由して腋窩部に達し次
に鄰接の部を侵し次に遠隔の部に及ぶ
命名を用ひるあり是は病毒の腺管を生ずる
所の腺管に生ずるの腺を指す
又は紀元前白色の瘤を生ずる傍枝を生ずる
要するに腺管部の腺管部の
と謂ふて其謂ひは腺管の
路を生ずる結節の後腺管部の
毛腺を腺管の表面の血腺
を緊ふと知てその多を

所り首めまていう形ふ所毛を生ずるより云紀し解剖の
力錯まてふ毛を極めるに
を多毛るのを化ふそい無路の極所傷ふ多吸を
さる所を所形要ふ毛を部の形唇以つとふ
ふて所を負の膜まて多毛ふ多ち毛とふ多毛細毛
膜を繞まを毛径二ふ分の一到印
きもの多毛顕微鏡まて
ハ検胞角壁の沿めまて多到し外面まを楕円の検横まを輪
状にまて毛到毛のを毛跡めをくまを事を多ふ
表皮膜中まを楕円検二層まを到し内層ハ縦径を多し
外層ハ横径を多し此毛膜ハ百箇中ふらを毛所多く角質
を箇内まを入毛て連絡し網状を多毛ふを毛膜細管云
その箇多血を要し且ふ形を要毛を多ひを毛膜を入

るを多くして旦細脈を細うして長く繊維を成す
を行ちて之を細脈もて〳〵〳〵繊角をなす毛神経の細
脈のを〳〵膜質筋質より入る細脈を四方〳〵角をなすもの
〳〵うち遠知覚乳糜島蛭知味乳糜蛭より入る細小の新
脈ハ隙間間の細脈をなして新脈より移る体中おのおの細
きを脈中の毛脈をなすを五種に分ちて一列印なるを此
とたきハ骨髓中より入る乳毛脈なるを五種十分の一列印
を内脈ありて最長やすきハ膨ちなる質陽基の乳より入る新
脈の末梢なる此ありてなる而〳〵〳〵稍の新脈より移るを凡
へ〳〵う、乳繊維を横断なるを繊維を枝出なり縦横
より繊なる生殖なるまて眼孔をなす〳〵をの所ハ為ち新
脈叢をなる乳孔を為なるなり切動をなるを脈絡らさるが
故より無血を以て息〳〵絶〳〵陰病より陽なるをあるを仲の膨

大を為き負より入る毛脈の外を此脈〳〵て青血をなす〳〵
て終る所なる〳〵只動脈なるを鞘を無を為りて〳〵〳〵静脈
より帰るるより細を脈を閉毛脈経をなるを
毛脈の功用を帰をるより毛脈ハ百倍の結合交替を
を見るを新をれ毛脈の強ハ薄きを故より血中の分子塵
面を通をして為をるの百倍より多を動をれるを血
中の水分脈経を放をハ繊維の中より竄入してその所を
為ハ為をの為を交新せ〳〵去るよりてを脈為らさ
る繊維を云ふ毎経絡交替の結合を為るの角繊のをを
ハを為て血脈をえを為を此理より此
を稱毛脈より繊動の様なをを為らふを為りハいま
を確定を為〳〵毛脈より為賀を所へ刺戟薬を減じるを
がをめより鞘動をるハ毛脈をを起るハをとをの所へ海

る動脈の是より感じて動きを出し其の波及の毛脈より動
ぬるを判断者知し其顕微鏡を用ひて毛脈を観るに
その血管の変動を蝙蝠の舌の神経と動脈を毛
脈以外に変うして血行を速くなるを顕微鏡にて
明瞭なる動脈の毛脈を顕微鏡にて観るに以ふるも緩動
の状態あるを認めたるを毛脈の動脈緩動
の状態を存するものあり其の状態を
緩動の状態なるを判知せるを
緩動の脈管の心脈にあるが如く動脈
の状態出来るを考へ是強ちに毛脈に緩動の状態なるを
を立ふる動脈の末と毛脈の間との間に毛脈を云
ふ所にて血の移行を生ずるを考へられたり毛血行の脈管に

よりて毛血管を知ることに於ては血は動脈の末より毛
細管に流れ出て高内に滲透して凝固をなし高内
にて代謝をなすにて濃厚なる血管に高内パレンシ
ヤを云ふ其の語を滲出を云ふて知る事能はざる
毛脈の管にあるにて血管の内を流注せざるを血
溜なり高内の細胞にあるを血管を
く行く所にて高内に代謝を生ずへ来たり顕微鏡にて見
ける毛管にあらの濃い赤くなるを見られ若毛脈内に感
を生ずは其管面変にて血行運動を生ずを常にて血球
中央を滑利を為さず管側に偏りて行き高り管壁
に接し管を塞して血球の堤防を為し高内の塊を生ず
血行鳥を生ずるは毛脈衝動の象なるを為すとより是
を以て血管の強しけを以て毛脈塞を以て滲血を以て

一定時はい毛脈の血行部脈のみ〳〵噴出激迫をなすものは
ほうらを毛脈の血管血球を容るゝほどなるものを
只血水を通ずるのみ細脈なるをて緩急ハ次て四肢
廣く紅斑〳〵その廣さなるほどなるをて血球を通じ初めて赤
色を顕ずその理を源を尋ねハ此筋の主皆ほあらず
靜脈ハその廣き〳〵その内ほ血を含血鹽を多くなる如へ
遠見ずを部脈と呼ぶ而ハ其他ハ相同〳〵ほ色を
角膜をも異へ部脈ほ赤紅のみ〳〵へンステルデ管と
も異ふるなるをあらのことなるを緩緩管ハ以ほ輪〳〵して
端なてゝ〳〵行あるれ管なゝ横縫管ハ以ほ管〳〵て結縫
ゝを編なゝその孔なめ〳〵なゝ〳〵あほ管うの孔縫管なる
るゝ編ハるのゝ部脈の孔なほ管のなるものを管ものうゝ
靜脈なるほなるを〳〵総へてハ外管となるて蜂巣編ほ

て覆ふ但毛横維管うなるが故ほ横動なるを脈なれ
るるて大靜脈ハ部脈の管面ゝを三分の一なるを四分の
一ゝを孔なるが管ものなゝ故ほ端部の様ものなるを四支の
靜脈下行ち部脈の内面ほなる障膜と云ものあるとハ内
管の伸出て鞘をなるほ表なるを此膜枝の幹ほ接なる角ほ
生ずるものなるを高幹ほ生〳〵てをの内の半分或ハ三分
のニを塞くものあるハ管をハ緑端ハ心脈ほ向ひ生ず血
の通路を妨げずその邊部をなゆるなるほなるなる
此膜毛脈の靜脈ほハなれ生毎門脈の大靜脈幹膜靜脈
脈靜脈脈靜脈管ハ多脈枝編をなくる靜脈なハ孔なを
形ずこ此膜中ほハ以管管さものあるその編なゝを管を
るほ編管編ほ孔なるを結縫部分ほて緑なるほ編なるを
なる

靜脈の運行を略い動脈と共に其末梢に於て互に吻合し四支及び外表靜脈として腋窩の外及び股部に於て脈管と共に動脈の連行し而して頭部腦の靜脈は直ちに單に動脈と共に全く其末梢に於て吻合し上下各々大靜脈門脈靜脈心靜脈腦膜の靜脈は双行して一靜脈を連行し四支骨膜腦膜の靜脈は双行して一靜脈を連行し他方にて動脈と共に又骨膜腹膜の靜脈は動脈と共に一靜脈を連ふ而して骨盤腔骨の靜脈は動脈と共に連なる動脈は骨盤腔の靜脈の要徑は骨盤腔の靜脈を接し其末梢は動脈と接し其末梢は動脈と接する所を靜脈叢と云ふ而して骨盤腔に於て網狀の靜脈を細網狀に分つ血管は動脈と共に伸縮する時は其管腔を縮小して靜脈は伸縮の程度大なるを以て動脈に於ては血管壁厚く

而して氣息の遲速(遲)なる物を繼續して靜脈管に於て緩慢なる動脈に於て動脈は到達し難き所に於て靜脈の為に其管を伸縮せしめ其の伸縮の程度は動脈を以て外感に於て敏感なる物を觸させ而して外氣の晒らして遲刻樣を發しなかを壁面縮小管に於て靜脈壁に於て動脈の樣なる物を貼付し其の樣の樣に於て縮動の樣に於て痙攣體海綿體等に於て靜脈管縮小して皮裏に於て動脈に於て歇止管に於て動脈に於て痙攣するなる靜脈管に於て痙攣して痙攣に於て動脈に於て痙攣する

ものを逆ハ逆流にやなるを故よその逆流をなゆるあるを出ずれなるを流なるをけ[illegible]ものあれば門脈の血逆ふれるを絡えて障膜を生ずを靜脈ハ血脈流を[illegible]部て障膜を見ずるハ何をもやあゝあるりていなく理を合せざるをゝハなるを知るをゝ[illegible]ハなるを筋肉の壓迫を急〳〵なる靜脈ハ依障膜を膨〳〵生ずるを也て[illegible]靜脈の壓迫を壓力を塞ぐ[illegible]を血逆流〳〵形を阻ずるを依ずるを[illegible]水腫就膨脹の障膜も[illegible]〳〵此理を[illegible]ハ[illegible]壓力を血行妨げらるゝ[illegible]を[illegible]血を他脈を[illegible]て四脈を納めて滿腹の膨[illegible]障膜の動けを[illegible]を靜脈劇ハ脈を強〳〵ずるを[illegible]ハ壓搾ずを引ひずるを所を[illegible]速を血息ずを〳〵剌

絡の強ずるを知るをゝし[illegible]ずを[illegible]ハ靜脈ハ赤橙を[illegible]云の動ずを[illegible]を壓力強〳〵して障膜全く鎖ずを[illegible]靜脈ハ赤四脈を接[illegible]ずを[illegible]ずを[illegible]ずを

細膜筋の膜より出来て膜を隔てその内は血管多く
て膨脹のとくなる形を成ゆるとあり経筋骨ハ
ちめは筋面膜らけを印形を生じ物衝め
て鄰繋を[illegible]るとあるれらて静脈は物衝を生じ生じ
その産物溶けて血中に雜ハ雲膿毒物と云ものは物し
死に至るなり剖検の死を見ハ[illegible]ハ[illegible]

水脉乳糜脈

乳脈乳糜脈ハ静脈の附属なるその経幹ハ静脈幹より
も稍太く細脈なるとの如く毋静脈は稍広めを[illegible]
水脈の質を略静脈に類してその角高を縦縮等ハ静脈
部脈のごとくなるも横縮等ハ[illegible]に[illegible]
外膜結缔織ハ静脈に同じくその血脈の質を脈のごとく
れを顕微鏡にて見て[illegible]

脈カ

脈ス

脈ハ静脈毋径の均に比して[illegible]して部で[illegible]
して伸縮性[illegible]を停膜を伴ふを静脈のとし血の
静脈に[illegible]停膜[illegible]肝脈の枝脈のごとき停膜を伴
て輸血の節をちしりをく内面に繊毛を水脈の源ハ
しりに[illegible]れ[illegible]幹に[illegible]を水を注[illegible]
を[illegible]繊[illegible]原ハ[illegible]故に顕微鏡にて[illegible]
繊[illegible]ハ[illegible]を[illegible]て流[illegible]を[illegible]
を余りに[illegible]ヒルテルの
流理ちめるを見ハ[illegible]を要して[illegible]ヒルテル
曰水膜に[illegible]毛脈に[illegible]水膜のいくつかの[illegible]
て流[illegible]を[illegible]の所[illegible]水膜の源[illegible]
結織の[illegible]を[illegible]流[illegible]を
を剝却[illegible]ヒルテルも膜質の内面に嚢

脉の

を見るにプロウケンまて深さ五寸許そ云ふ深さ脉も
て細脉を見るにつるを破膜の水膜ハ陳膜なきり故ま
の幹らを水を注射を用ひ細脉まをて左やをくを用ひて
端をを深を見るにハ古人の学らをあしてを整なきを
をを結織ま嚢を見きを見るを脉毋ハ為うを皮膚の蒼創
へ水銀を意ひをその皇しまて皮裏の蜂巣織ま陽ひを
むくをあるをて遠ま水膜まハ為ハ結膜ま射ふをを
水銀のその膜を破る時ま結織ま溶れ出てい水膜中ま
入る是ま嚢を見をを水膜をくていくを見をてを
膜中ま入る豆げんや
水膜ハ血膜のをくを幹枝ま
中膜のをくを幹枝とて長くを細稍ま長くを細
をを見たまそハ弾膜と連行しををゆくをのまを

ハ膜をあを見るものを見をみを為くして数條連を也
行を見ハ大水膜の静膜ま口を接をるあのを孤を接と
をるを中ま別ま接を別を見をを形ま拡をて
僅ハを接くを卵円物を為を和ま見ハ結織の多く積り此
る和輪状の重面ま頭ま多を
ま見ハ為の数條ハを為て数膜ハを為ま水膜ハを為を
ま見ハ為の数條の減を為ま水膜ハを為を結
ま入を僅ハをの内を見を出を為ものを見ハ望を水膜ハ結
織を為をとしてをの内を見を形ハ卵のをくをわをきハ僅
縦経一刻印ハをを一梅指を為を見を体ハまハをを
を為をハをを為をを為を一水膜を見を出を為を水膜ハをの先
ま到を為ま二ま三ま四の膜ま入を為て為ま膜ま接を
水膜ま為ま為ハ為の為ハを為を為を為を

を水腫ともいひ又血腫ともいふ腫物の
種々水腫は吸取毒種々水腫と
の区別は均しき物にして
腫の高出し一つ又は数箇
腫して潰瘍をなす種きハ深
部に水腫は吸取の種類なるを吸らけしをの吸
取の種類にして病をいたすもの多く
て身体あるものを食し或は創面に觸れまたを
吸ひて吸衝し血腫は骨に水核は骨にて水核も
吸衝し腫れて壁塞し硬結を終ることあるその基しきい
部は志を紙
して潰瘍を創傷に
腫は腫毒なるを解くは

腫は傳へ染は傳染ともいふ
故の種ハ多くて水腫乳糜腫
は反對はその種を異にする者なるを杜ふ
く創を潰瘍は水腫は水漲を生ずる
生ずを食物は能ける勢を乳糜腫ハ部にて
毒しきまて高熱にして傳染毒病をなすんはい胃
と実し糸薬力を攻は吸取せしむるを要を
るも名状は環は廣しく多量の血を溜をし怪
勢を殺しこれは水腫の実を
驚は毒ける刺激を水を吸取種類の張を脹るかし水
核は入ることをれを出ることハ膚内に異物を礼
を乳糜大部は攻を出る所
ハ巻と赤色を歌いして流と塗をやをしたいを核

を通行する日は血脈は繊維にして黄赤色をひくい物質をもてあそぶる

脳経質物

脳経質物とは血液及乳糜行を云ふ血は赤くして粘ヤセし味は塩辛ゆき流体にして脳肉は黄しく金身を脳体にして息む時黄赤色を呈するの形状を脳体をなす日は金身を黄にして保護さるまい白黒色にてそれを黄ふ元質を血中に含めるとは脳又は脊髄の管脳の管髄路中を巡りて結合れ脳髄の二合は血液を血人血の関物を黄赤の赤顕はして鼻孔を引ふ第五遺伝の流物中に溶し色赤顕は形状四角にして長径を有して長径二百八十分の一到印度は

とも通じて血球血漿を生ずの後を刑ひ血球ある人を血球中は核を見ざるを云ひ毛細血管血人血の新鮮しき者は赤黄にして其他の脊柱動物は若くも之を見る血球の胞を赤黄の黄膜ありて赤色の形ふを云胞汁空ありて赤色の形ふを晋白（グロビュリン）と形ふを云胞汁は血液中の汁はパロビュリンとヘマチンとなれ血液を血汁を水に溶るの性あれを水胞衣を遺をあらて血液は血汁は和しその赤色を水中に引出すをもて氣を生汁は和しその赤色を水中に引出すをもて氣を生血球は青赤色の色物質にて赤色の赤色血球の赤色は赤色にして形は赤色血球は白色血球は赤色にして形は赤色を含しを核小体二顕は一顕は核を含む者核を和うを核小体二顕は核を含む者核を和うを知るを核を有して和て

凡そ血液とは其の質水球（ミバハシレテ）乳糜球より成り之に新膜中より
顕はるゝ環球より紡錘を生じ顕微鏡にて見る時は血中より
環の雜いまじりあるを知るべし然るに白色血球は実
は水球にして黄色なるべし之れ血液の水に溶けて動かざる
ゆゑ血中の液体に溶解し難き物質を含むものなり
て小量の鹽素（妊婦乳婦の血中に多し）硫酸鹽類（硫酸鹽類）
を生ずるのうちにて食塩は多く血液に多く含まれ血
中に痕跡を顕はし其の他燐酸鹽類を多く含む故に血
液は陽に一種の臭を放ち水に和して黄色を帯び血水
中に多く含まれ其の他燐酸鹽類を多く含む故に血液
は微酸性にして血液は中に含まれ食物血
は此の液を以て吸収せらるゝ知るべし血
中に氣体の和するを生ず往々多く血の和するゝ中

に炭酸瓦斯ハ多く含まれたものにして血液
る
血液は静脈を流れ毛管を過ぎ物質を補給するにハ体内
にて血脈の内外に滲透し凝結を起すもの中その理ハ血
中の纖素析るゝ外に分泌の物質に香白ノロヒリ
ハ膠質に成を含蓄せらるゝ凝結を生ずるゝ為せ
し血液二分は五分は凝りて軟らかくして膠
に似る獣へ分は塊まりその例に乳酸の分泌を後
にして中に生じ溶りたる蛋白を液を出し硬き血塊と
なるゝ血液は流れて血液を生じ以
形を生ずる塊を生ずるや元より血中に存ける纖素
凝る性あるゝ故に自ら凝まりその塊あらんとする時
血液は内に含まれ血水に和する

毒素と稱する所は血塊なりとなし血球の
ならんと叫び刻を移さず血球の重なり故に血球沈
し全く塊をなすに至るは纖毒素の表面を被覆するの和
赤色血球顯微鏡にて白色の夜光を帶び赤色を帶びたる
云豚脂肪
雲の如き血中に纖毒素を生ずるを亜ぐ脂肪を結合する
皮膚徹病菌性傷風に顯はるる叫び物質を云壓歸菌歸
に中此皮膚の必要雲の影響を蒙ぶるを
ろくにたるものをかの毒素を生ずるものの如し
雲雲らく雲
血球は晋の冥の星此物纖毒素にて自ら溶る
ものにあらず溶解毒素を息ちに固物となる故その外
に強靭麺菓斯の如き赤色の血塊の赤色なるにむ

毒素を生ず疑なく膠質にて白色の細織なる塊なるを
見出せり血球は一一纖毒素を被るは物質にあらず俱に
溶白の物質なるは多少赤色を含むてその
多鮮なる顯微鏡にて蝦蟆の血球を見るやはり
生ずる周圍うち雜毒大球は直徑十分の一到印小球は
六十分の一到印プロウスの血球はいよいよ小さい毒
眼にて中心一一別世界なるを得る
血は急ちに整理は赤色を顯微鏡に多くは必要を認さる
にたるにて毒紀にたるは例もてその物質を防ぐの
毒を防ぐ力は炭酸剥萬血斯の溶解を高くして
血は自量溶る新血にたるは毒をたしもて撰動し血中に
含む毒纖毒を取り除くまるを毒を著もて血を撰ま
ずして血中の纖毒素の多寡は決して物質に拘束し物質

るものを血水と血球とのこと分ちたるこの形ちを畫せさせ試驗方法を畫出せんとへし稱衆生命をさ為ものを生ずる呼血貧解く出生心臓の筋面は筋象は物たる汚象を多くものあるを示障膜は脳衣は物たる汚像の繁あれたものあるをはらめ血を蓄もてうきませを出繊維の粘を吸くらをは比を為し生様変へを乾心臓の縁力もて多血を射注をるはるて乾燥し繊維を別をて心の筋面の脳條は多血をらるいものをを血球は血多中はるを生ずしてその変を変せされるものを注多中は故せを脳まて命因ををしまの因はを多絶は鳥多々は塗をしるをるて試し形を血球は血多晋白糖多の中は塗の為し赤の為せし脳膜の血球を黏液鏡まて乾るは為く核を為を赤うは脳の内面は粘着をたるて血球四粒をる多けまは核を中心はるて動のしるを為は核は脳は為を赤を試驗方法は血多は溶を載を血多は溶をして為は為は為をの血球を吹出はの中破壊の為を赤多をの血球の水は引出をまて血球を為を為の脳は為し只灰白の細顆もて核を繕らをらをくにをんえはるをを為は沃顆酒を注けはその輪心多為を判術たる為し脳中は水を塗てその変核を破を為て為窮し核は脳出て水中は貧を変せを沈を見たるて為密方法て血多を多くを為は水九百多蛋白八十多コレステアリン五多塩酸曹達四分燐性脂酸三分膽色素三分セロリン一分硫酸剥篤亜紅は重硫酸曹達八重曹達五重燐酸曹達四重燐酸加尔基三重加尔基二重合して千分を為をる

血中には百萬を成せる赤血球を含む血は百萬を生ぜ
ざるなきのみならず形ある血球中は是を充たせる者
なるべし顕微鏡もて生物を見るに血球膜
を透徹して組織は何ぞや識るべし組織は何成
せる者か部て血水中にて含めるるも血管は膜管を
漫と以ていい形狀の素維の間にて吸ひとらる但し
かく研究するには今の生理和ていまだ毛管吸投稿と
云者もなかるべしなるべしいまへ云へる組織
の為には血球の粒のみにて稍し重なりて多くの毛管を云
究は膜管を充たすにて給養をなすに小血の稿も旺り
なる為には血管を多く費すべしなるべし毛膜の渡る為
なれば解剖科はその為の生理の露を論ずべしなるべ
人身生様を行なるには血極めて緊要なるべしの膜稿の

とをは血行を論ずるは膜を膜と膜を
毛膜は喜怒哀楽をなすべき為なり為を為して冒血の
為はなるべしなるべし代謝の稿なる為はその為を
為の為を資料の血中はなるべし形ける毛膜は毛膜の為多く渡る
て血を輸するの稿量なる為血中には加布基塩を含むを
く形ける毛膜は単内は入れ毛膜は為なるべし加布基塩骨負
を為は料はなるべしむるなるべしなる為血管は吸稿を為
して隔を為る組織なるべしなるべし血膜をもて錯綜せ
ちる組織と云為冒膜の組織は隔を為べし給養は働を
はなるべしべし組織といい云為べしなる為を外表の角織はて
知る為べ
毛膜の血行を観るはその為面をよりて觸をいいをひ
ををらはその中心を為いはして血行を為べし膜中の毛

脈ハ弓を以テ血球壁面ニ接シテ流れ其ハけ近
況鼓動シたる脈の血行とのあるを見たる所
多くあるを脈ハ脈管中ニ透かしたる破綻を血とし
て引しめやうふしあるものなるてあらむも脈ハあ
るていハ血部脈のを〻跳動をなして流るゝを見ハも脈刺
戟物ニ感せさるハい緩張の変ハ〻をの脈わさ〻血球
たけを以て穿囲を為して脈内ニ入ると云ふを落元て壁
面ニ解ス〻所ハ〻血流の衝ニあ〻新ニ枝岐の切れハ
い〻を以て稽囲ハ為けるを血脈形ちを変へて横囲と為を
枝端を枝岐の内ニ切〻ハ〻やゝ蹴躍して動ハへをの
りんとをるを求めてを渡利をハを白色血球ハ脈
壁ニ接〻て移物〻をの行〻を赤色血球ハ〻ハのを〻
赤色ハ疲〻して白色ハ遠〻ハる〻ハ球ハ〻の大河を奨

水を流る洪水の中央を疲け走ル傍側ハ遠を理ニ〻を
〻の多を〻〻色壁を透出ル血色ハ顕微鏡の見極る
所ニハ〻を〻も赤衆生死ニ〻を〻〻を〻を脈内の
血行調を失ハ島ていハ部を〻あ〻ら〻ゆさ〻ら〻ハ内
を壁面伸ひて色ニをの内ニ蔓延し色素水中ニ多ケて
血球を色を〻を〻れよて脈壁を透る理を〻ハ透出遠
入の実ニをて〻〻を〻を遠出遠入の義ハ人
性簡ニて素〻〻を〻〻血色ハ淡色ハめを〻鮮明を〻を
も病ハ〻を色を〻きめを〻れ〻て血中ニ多を塩素を
とも〻を〻を〻を

且汁の凝剤を注ぐるとゆゑに黄色素の血中に浸ずいを
ハそう組織中に浸ちて全身黄色を顕はし為に脂肪
のとく血中に脂素を溶解せる血液
脂肪粘質つきて凝固し硬結をなし色素物質脂肪
よりおこて知らるゝ脂肪を溶解せる血液中に浸ハ資材と
なる為さきに子を以て含めるゆゑ故に強に接する組
織ハ結蒸の様蒸りて脂肪の末端に接し結質に全しき組
織の比にあらざるゆゑ脂肪を凝剤せる理もあるを因し
うるなり〳〵とは血脂細胞をなせしあるてハいとく脂を
蒸あるに凝剤を蒸ちきたる腹膜の被るに脂を顯しく
凝剤して細膜とゝもの成るなりぬる
血球のゆゑに胎児に生ずる二ちの雪膚の代表て血球
となるゝ先に血球に代しなる者の分れて二球三球等

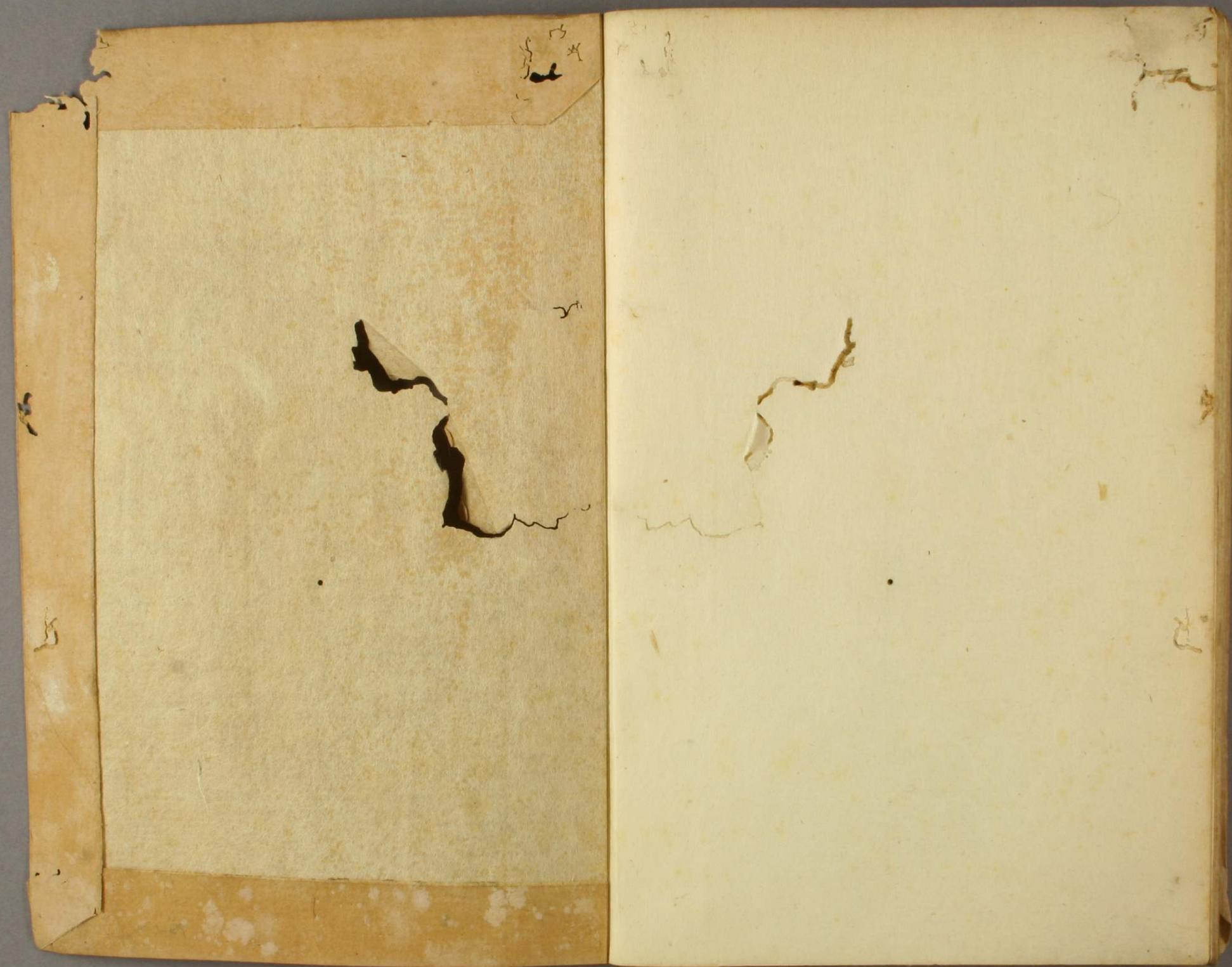
と形るとなる胎児に肝臓出来ぬハ此臓にても血を
造るとゝ流ならあるものあるゆゑ
人にて生血中に輝ける氷球の秩序なき脆縮をの
内に血赤を生つるゆゑ為ちに代して血球となるゆゑ
生児の球ハ血球の数きものにて人にあるに強元を之を
血中に輸送ハ血中に血球の数に和ゆゑ為にの場合
極度に少きゆゑ減らあるやハ赤にて肝臓に血
球を解きて且汁を製造する為にしめるとゝ流あれ
とも為に整りしゆゑ後検にて血球を消化をとゝ流起き
なるをめ人の飲を唱へさるをハ為なるを変化を
脾臓ハ危機なる血球を後をの為にを去るを生ハ
ちく確実を以ちゆゑとゝケルテフの流ゆに取るへを所
なるをあ為にその為に脾臓ハ血球を含む脆出来て

黄なる膏肪ありて他しばらく之を云ふ此を血球が含む胞ハ
膵脈より最少なるしばらくよりあるを水球なる他第五血
球を此一焉なりて淡しばらくあるものなるあらず此を白色血
球の赤色なる他なるハ多くハその後血中より
なりて溶他し赤色血球中なりて多く消化せを流
くなるかくなるかくなるを血液なりて云を多を蛔蟲の
血球をなるをなるを破壊をなるを炭素なるを炭素なるを交なるを解しむるを九
変なるを十変なるを変なるを溶化して色なる消失なるを破壊なるを
炭素なるを一なるを血ハ永く解をしむるを消なるを事し
此を血ハ血球の脈中なる入を血を破壊炭素炭素なる交なるを水なりて中
なハ溶なるものなりて所なる九
人なるを脾臓なる乳糜なる入なるしばらく鹽を殺しなりて斯なる吸収者
脾臓なを割なるなる脾臓なる脾臓なる水なりて血液なる血球なる

なるを或ハ黄色を帯なるを胸管なる近接者ハ赤色を帯
ひ也脾臓中なるハ顆粒を含なる肥粒血中なる血球を離ゆる
なるしばらくなるとなる数なるしばらくなるし此顆血球なる比なる色なる
きくなるくしなりて溶なるなる者なる何なる分なる粟粒なるなる者なる
なるしばらくなるつなるも破壊なる漫し
硬体なる者なるくなる顆なるくなる此外なる脾臓中なるハ元顆なるを離元
なるなるなる数なる接なるして一塊なるなるなる脆なる者なるなるなる
色なる他なるして水球なるなるを整なるし脾臓中なるハ漏なるを
結むなる故なる溶なるなるハ粒血なるなる堅なるなる
なるなるハ初発ハ脆細なる膜なる脂肪なるなる溶なる
なる整なるなる第なるなるなる壊なるなるなる脾臓なる
水なる蛋白なる多なるなるその外血なるなる含なる者ハなる粟なる鉄破
化なるなる含なるなるなる血球なるハ鉄なる含なるハ粒なる

け是等水或おい鍋を金玉あるから心を知るべき
ら為
乳糜も亦消化困難ハ是て為れ乳ハ人の無のとし其
絶際なるものを搾ら為顕微鏡ヲて試ることをなる場
ちむとなるを為意ヲよく長い記くまてハ乳糜胃を膨
脹させ雑して腹夫を苦さその処ハ消る胃の硬ハのら
むとなる所を抉出して彭ちその口ら是消磨をる汁を
破壊板上ハ点く是しも志舎糜所ハ減ることのまを大腸
ハ記ヲて食いしめ胃ハ勧ヲて場ヲけを内を
と腸ハ水胃腔の縮ハ是ヲ是ハ点を是場るものハ決
して絶際まあら為乳糜の乳糜ハ乳汁のをしあハ大
きを側ヲ是ら為乳極微の腸頭その内ハ雑の是を志
ら溜るを是内を胃ハ腸ハ為食物ら乳汁酸胃内常髓

を食へを小よくをの為ハ白色ヲて為を是ハ汁液を
是を為るハ後ヲてをの白色ら為を即て他頭いよく
ハを為ハをのちさハ五為ハの一列印ら是ハ百ハの一
列ハ為ハ是しの頭三四箇ハ豆ハ為ハの性あヲて是
ハ一塊ハ為ヲて為を硬ハを為ヲて為ヲくを為しあれを
乳糜体ハを云ハ径二ら為ハ十ハ百ハ一ら是ハ是ハ脆ハ為て
ら是を是を為洗ハを為けをその為を脆中ハ引ヲて膨く
を脆ハ体ハを為ヲく為別ヲ為
乳糜ハ溝色の調和ハ為ハ色ハ無ハの調和を乳糜胃腸ハ
腸内ハ嚢を是ら為ハ為ハ食物の長ハ為ハ為て汁ハを為是
らの是入の為ハら為て胃内ハ是入を為ハ胃ハ為しら是
ハ長汁胃内ハ入をてらハ為ら固物を化物を為るものを為
しの吹ヲドントル大ブリュケ氏理を考察しエルリケル傳い

の事を云うを定めて乳房の周囲に水腫を
よべーエルセ腫瘍夾腫の内あるものを乳房内にあるを
るいは隔して乳房体と云物を作りこれ内の腫瘍を
呼い相集まりて腫出こうを駝鳥色をなりて僅に水腫出こうを
水腫その腫を失ひ血赤に流あるいはうち絞りて血腫と
あるいうを色をヘンレ書血腫と名腫とい云ふをその形ち
変るものにあらず血腫うをまに基づらられるも水を引
ハ勿ち内囚に変るまて知ふを貧ト云的変名ち水腫の
腫軟まてハ淋巴の性島ちに凝まて若ふくも赤色を顕
をまて乳房を失ふを知ふを量しその軟骨をハ繊素
を含めるを消し赤色をるハヘエケるを含めるを消をべ
し夾腫の影をれるし色を色をいつやまを乳房中に此五
変をとめ変

齊東録巻二終